

《東三河振興ビジョン2030の概要》

I 策定主旨と目的

団塊ジュニア世代が全て65歳以上（生産年齢人口が大きく減少し、老年人口がピーク）となる中、未来技術の進展、リニア中央新幹線の開業、広域幹線道路網の充実等により、東三河地域を取り巻く環境が大きく変化する「2040年頃」を展望し、また、国連が掲げたSDGsの理念を踏まえ、めざす地域の姿を描き、地域が一体となって取り組む「2030年度」までの重点的な施策の方向性を示す。

II 目標年度及び策定主体について

(1) 目標年度 2030年度（2022年度から2030年度）

社会環境の変化への対応と進捗状況の振り返りを行うため、中間見直しを2026年度に行う。

(2) 策定主体 東三河ビジョン協議会

地域づくりの主体となる愛知県、東三河の8市町村、東三河広域連合、経済団体、大学等で構成

III 2040年頃の社会経済の展望

人口減少の一層の進行、人生100年時代の到来、外国人住民の増加

- ・東三河南部で約3人に1人、北部で約2人に1人が高齢者に
- ・総人口に占める外国人の割合は、さらに増加

新たな大規模感染症リスク等による社会経済の変化

- ・ライフスタイルの多様化の進展
- ・「都市から地方へ」の新たな人の流れ

急速に発展する未来技術（Society5.0）

- ・「Society 5.0」の実現
- ・「デジタル・トランスフォーメーション(DX)」による飛躍的な発展

リニア中央新幹線開業、三遠南信自動車道全線開通等による人の流れの変化

- ・リニア開業に伴う新たな人の流れ（リニア中間駅、東海道新幹線）
- ・東西軸、南北軸の広域道路網の充実による交流拡大

世界経済のアジアシフト、多極化

- ・アジアに巨大な市場が形成
- ・訪日外国人の増加

災害の増大、脱炭素化の進展、SDGs理念の浸透

- ・気候変動による災害の広域化・激甚化
- ・脱炭素社会の実現、SDGsの理念の浸透が世界的に進む

Ⅳ めざす地域の姿

(1) 2040年将来像

○住民生活

誰もが豊かに暮らし、活躍し、多様なライフスタイルが選択できる、活力と創造にあふれる地域

- ・人口減少、少子高齢化社会に向け、外国人住民、高齢者を含む誰もが、活躍できる地域をつくっていく。
- ・豊かな暮らしの創出に向け、AI、IoT、ロボットなど、未来技術を積極的に取り入れ、地域課題の解決を進めていく。
- ・SDGsの理念を踏まえ、住民・事業者による循環型社会の実現に向けた地域をつくっていく。
- ・地域活力や新たな魅力・価値の創造に向け、地元への愛着を深めるとともに都市と豊かな自然（山、川、海）との近接性を活かし、多様な働き方、多様な形でつながりを望む地域外の人の受入れを進めていく。

○産業経済

社会経済の変化に柔軟に対応し、持続可能な、力強い産業が展開する地域

- ・生産年齢人口の減少を踏まえ、急速に発展する高度な技術を取り入れるとともに、産業を支える人材の育成・確保や円滑な事業承継を図り、持続可能な地域産業を構築していく。
- ・技術革新、世界経済のアジアシフトなどを踏まえ、産業のイノベーションを創出していく。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策の観点から、豊かな自然に囲まれた屋外観光地への来訪客の増加や地方移住への関心の高まりを踏まえ、豊かな自然、歴史、文化を活かした、魅力ある観光ブランドを創出していく。

○社会基盤・広域連携

未来を拓き、暮らしを支える社会基盤の整備や産学官、三遠南信地域などの多様な連携により、地域のポテンシャルを最大限に発揮し、発展する地域

- ・「東三河1時間交通圏」を確立する道路整備や情報インフラの整備を始めとする暮らしを支える基盤整備、広域道路ネットワークや三河港を始めとする広域交通基盤の強化など、地域の活力を生み出す社会基盤を整備・強化していく。
- ・急激な社会経済情勢の変化に的確に対応するため、産学官連携や域内の広域連携を一層強化していく。
- ・南北軸の交通網の充実等を踏まえ、三遠南信連携など、市町村境・県境を越えた連携の強化を図り、共通の地域課題の解決やさらなる発展に向け、交流・連携を促進していく。

(2) めざす地域の姿

連携と協働で未来を創る 輝き続ける東三河

地域づくりの各主体が東三河の特徴である多様な自然や豊かな恵み、歴史・伝統文化を活かしながら、連携と協働を一段と進め、新しい魅力や価値を醸成しつつ、暮らし・経済・環境が調和する地域社会を形成することで未来を拓き、豊かさを保ちつつ輝く東三河として持続する地域をめざす。

Ⅴ 東三河振興ビジョン「将来ビジョン」（2013年3月策定）の主な成果

「将来ビジョン」における、主な取組の成果は以下のとおりです。なお、「将来ビジョン」では数値目標は設けておらず、各主体が重点的に取り組むべき施策を記載する内容であるため、期間中に行われた主な取組を成果としています。

重点的な施策の方向性	主な成果
1 東三河の魅力の創造・発信	B-1 グランプリ in 豊川の開催、全国ご当地うどんサミット in 蒲郡の開催、奥三河パワートレイルの開催、奥三河DMOの設立、クルーズ船寄港地観光の推進、セーリング国際大会の開催、ロケ誘致支援による連携強化（「陸王」、「エール」、「ゾッキ」等）、2018アーバンリサーチ I S A ワールドサーフィンゲームスの開催、東三河レストランパスの運行、「okumikawaWake」ブランドの確立、「どんぶりサミット in 田原2019」の開催等
2 豊かな自然の保全・再生	奥三河高原ジビエの森の整備・運営、いらごさららパークの供用開始、三河湾大感謝祭の開催、アカウミガメ保護のための表浜海岸の共同パトロール等
3 地域産業の革新展開	社会人キャリアアップ連携協議会の設立・連携強化、再生医療産業化の推進、海外マーケットに対する販路開拓、ドローン・エアモビリティに関する新産業の集積に向けた取組、漁業生産基盤の整備等
4 安全・安心な地域づくり	防災・減災対策の推進（道路や治山施設等の整備、建築物の耐震化等）、地域医療連携の充実・強化（周産期医療体制の強化、愛知県へき地医療確保看護修学資金貸与の開始）、奥三河の生活基盤の確保（過疎バス路線維持に対する支援、三河の山里サポートデスクの運営等）、三河港（神野地区）耐震岸壁整備、東三河広域連合による介護保険事業の開始、オンライン服薬指導の実証実験の実施等
5 誰もが活躍できる地域づくり	豊橋特別支援学校山嶺教室・潮風教室、豊橋市立くすのき特別支援学校の設置、長期的なインターンシップの実施、技能五輪全国大会の開催、子ども・若者支援ネットワークの整備、日本語学習支援基金の再造成、愛知県立田口高校『お仕事フェア』開催、「まじカフェ」の開催、ビジネスパーク事業によるキャリア教育の実施、「豊橋イノベーションガーデン」を核とした人材育成、「モグジョブ」の開催、あいち農業女子現地交流会等
6 地域を支える社会基盤の整備	国道23号豊橋東バイパスの開通、浜松湖西豊橋道路等の広域道路網の事業促進、三河港の機能強化、森林等の整備・保全、市民ファンドを活用した公共施設における太陽光発電事業、豊川浄化センター汚泥処理施設等整備・運営事業、豊橋市バイオマス資源利活用施設整備・運営事業、東三河バイオマス発電所の運営・剪定木の受入開始、設楽ダム建設に伴う生活再建対策の推進、豊鉄バス(株)によるバスロケーションシステムの導入等
7 地域力・連携力の発揮	東三河広域連合の設立、東三河広域経済連合会・東三河広域観光協議会による連携強化、三遠南信地域連携の推進、生体系ネットワーク協議会の設立等

VI 重点的な施策の方向性（主な取組項目）

1 豊かな暮らしを実現する地域づくり

主な取組項目

- ①地域医療連携の充実・強化
- ②地域生活を支える介護サービス等の充実
- ③感染症、自然災害リスクへの対策の推進
- ④持続可能な行財政基盤の確立
- ⑤山間地・半島部等の生活基盤の確保

2 誰もが活躍できる地域づくり

主な取組項目

- ①魅力ある教育環境づくりの推進
- ②女性、高齢者、障害のある人、若者の活躍促進
- ③子育て支援の充実
- ④多文化共生社会づくりの推進
- ⑤地域活動やNPOの活性化
- ⑥生涯を通じた健康づくりの推進

3 環境の保全・再生

主な取組項目

- ①生物多様性の保全
- ②三河湾、森林等の環境保全・再生
- ③自然とふれあう場の充実・活用
- ④資源循環の推進
- ⑤再生可能エネルギー等の一層の推進

4 地域の魅力の創造と活力の創出

主な取組項目

- ①広域観光エリアとしての魅力の向上・発信
- ②ポテンシャルを高める都市・まちの魅力づくりの創出
- ③伝統文化の継承・発信
- ④関係人口の創出・拡大と移住・定住の促進

5 地域産業の革新展開

主な取組項目

- ①産業のイノベーションの創出
- ②戦略的な産業立地の推進
- ③産業を支える人材の育成・確保と起業支援
- ④地場産業、商店街の振興
- ⑤地域の強みを活かす農業の振興
- ⑥持続可能な林業の振興
- ⑦活力ある水産業の振興

6 地域を支える社会基盤の整備

主な取組項目

- ①広域交通基盤の整備・強化
- ②鉄道・バス路線等の公共交通の確保
- ③世界と直結する三河港の機能強化
- ④情報通信基盤の整備・拡充
- ⑤森林等の整備・保全と水資源の安定確保

7 多様な連携による地域力の向上

主な取組項目

- ①地域内連携の強化
- ②豊川流域圏づくりの推進
- ③産学官連携の強化
- ④三遠南信流域都市圏の創生
- ⑤県内他地域等との連携

VII 進捗管理指標

◆ めざす地域の姿に向けた進捗を評価するため、以下の進捗管理指標及び目標を設定し、進捗を計る際の参考とします。

◆ また、「重点的な施策の方向性」ごとに進捗管理指標等を設定します。

※目標の考え方：活動の質を重視する項目、量的な目標を設けることがない項目には、目標を設定せず動向把握の指標として活用する。

【めざす地域の姿に向けた進捗管理指標】指標数5

指標名	現状
東三河地域の転出入超過数 【目標】半減（▲800人）（2030年）	▲1,676人 （転出超過） （2020年）
東三河地域の住民一人当たりの総生産額 【目標】555.9万円（2030年度）	475.1万円 （2018年度）
東三河地域のSDGsの理解度 【目標】50%を上回る（2030年度）	38.9% （2021年度）
東三河地域のめざす地域の姿に向けた新たな指標（定性的なもの）【目標】策定（～2026年度）	—
東三河振興ビジョン2030の認知度 【目標】策定（～2026年度）	—

【重点的な施策の方向性ごとの進捗管理指標】指標数30

1 豊かな暮らしを実現する地域づくり（指標数4）

指標名	現状
医師数 【目標】東三河北部68人、東三河南部1,317人（2023年度）	東三河北部68人 東三河南部1,178人 （2016年度）
要介護者等認定者千人当たりの介護サービス事業所数	東三河北部 27.7か所 東三河南部 31.2か所 （2019年度）
健康寿命（日常生活動作が自立している期間の平均） 【目標】2019年健康寿命の延伸（2025年）	男性80.53歳 女性84.81歳 （2019年）
「びったりサービス」対応市町村数（累計） 【目標】8市町村（2025年度）	6市町村 （2020年度）

2 誰もが活躍できる地域づくり（指標数5）

指標名	現状
女性人口（15歳以上）に占める就業者数の割合 【目標】57.8%（2025年）	51.3% （2015年）
シルバー人材センター登録会員の就業率 【目標】87.5%（2025年度）	68.9% （2020年度）
多文化共生の推進（多文化共生の推進にかかる指針・計画策定状況）【目標】8市町村（2030年度）	6市町村 （2021年度）
東三河地域に主たる事業所を置くNPO法人数	157団体 （2020年度）
あいち健康マイレージ事業の優待カード「まいか」の発行枚数【目標】7,500枚（2025年度）	3,669枚 （2020年度）

3 環境の保全・再生（指標数5）

指標名	現状
「生物多様性」という言葉の理解度 【目標】75%（2030年度）	48.8% （2020年度）
治山対策面積（累計） 【目標】975ha（2021～2025年度）	—
里山林等の保全・活用面積 【目標】33ha（2025年度）	30ha （2020年度）
一人一日当たりの家庭系ごみ排出量 【目標】2019年度より減少（2026年度）	504g （2019年度）
CO ₂ 排出量削減の推進	—

4 地域の魅力の創造と活力の創出（指標数4）

指標名	現状
観光入込客数 【目標】24,600千人（2025年）	16,621千人 （2020年）
宿泊者数 【目標】2,310千人（2025年）	1,299千人 （2020年）
スポーツ大会の参加者・観戦者数（地域外の参加者を得ている）【目標】208,000人（2025年）	43,089人 （2020年）
企業へのUIJターン就職希望者数（累計） 【目標】205人（2018～2024年度）	57人 （2018～2020年度）

5 地域産業の革新展開（指標数6）

指標名	現状
創業件数 【目標】390件（2025年度）	238件 （2020年度）
製造品出荷額等 【目標】4兆7,900億円（2025年）	4兆5,695億円 （2019年）
商品販売額 【目標】1兆7,500億円（2025年）	1兆6,909億円 （2015年）
農業産出額 【目標】1,630億円（2025年）	1,532億円 （2019年）
県産木材生産量 【目標】10.8万m ³ （2025年）	7.12万m ³ （2019年）
漁業生産額 【目標】83.6億円（2025年）	79.7億円 （2018年）

6 地域を支える社会基盤の整備（指標数5）

指標名	現状
主要幹線道路の整備延長（累計） 【目標】38.6km（2021～2025年度）	—
コミュニティバス、デマンドバス、路線バス数 【目標】79路線（2030年度）	79路線 （2020年度）
三河港のふ頭用地・工業用地の造成面積（累計） 【目標】27.9ha（2021～2025年度）	—
治山対策面積（累計）【再掲】 【目標】975ha（2021～2025年度）	—
里山林等の保全・活用面積【再掲】 【目標】33ha（2025年度）	30ha （2020年度）

7 多様な連携による地域力の向上（指標数1）

指標名	現状
地域内外における連携した取組数 【目標】230件（2030年度）	115件 （2020年度）

VIII ビジョンの推進について

- ◆ ビジョンの推進は、めざす地域の姿に向け、東三河ビジョン協議会構成団体が、重点的な施策の方向性に基づく取組を個別に、または、連携・協働して進めます。
- ◆ また、広域的課題への対応を強化するため、「重点プロジェクト」を設定して、プロジェクトごとに構成団体等によるプロジェクトチームを設置し、新たな具体的事業に取り組みます。

ビジョンの推進方法

【東三河振興ビジョン2030】

内 容：社会展望、めざす地域の姿、重点的な施策の方向性
 期 間：2022年度～2030年度
 推進方法：重点的な施策の方向性に沿った各団体の取組の実施
 中間見直：5年目（2026年度）に中間見直しを行う

【重点プロジェクト】

内 容：新たな広域連携事業の具体化
 （事業内容は東三河ビジョン協議会において決定）
 期 間：事業ごとに設定（3～5年度程度）
 推進方法：プロジェクトチームによる推進
 （事業ごとにチームを設置）
 策定年度：隔年